

平成30年度 地域の寺子屋推進フォーラム実施報告



日時 平成30年12月23日（日）13:00～17:00

場所 川崎市立中野島小学校

主催 川崎市教育委員会

共催 川崎市地域教育推進協議会、学校・家庭・地域の連携協力推進会議

参加者数 第1部 親子約233組

第2部 約100名

第1部 親子体験教室

プログラム	講師
バルーンロケットを飛ばそう！	日本宇宙少年団横浜分団 藤島 徹 さん (JAXA宇宙教育リーダー)
藍染体験	かわさきマイスター 小林 伸光 さん
おもしろ立体づくり	公益財団法人日本数学検定協会 中島 博文 さん
ドラムサークル	Iorana Music 川野 めぐみ さん
アニメ理科実験教室	絵本プロデューサー 小花 利一郎 さん
ランタンづくり	メタリックデコレーション講師 小倉 美奈子 さん

【バルーンロケットを飛ばそう！】

- ・楽しかった、面白かった、貴重な体験だった。
- ・藤さんのお話はとても楽しく有意義で興味を持った。
- ・ただのスティックバルーンにおもりと羽をつけるだけでよく飛び驚いた。
- ・遠くに飛ばせてうれしかった。
- ・宇宙に対してよくわかってよかった。
- ・子ども、大人にも楽しめるイベントでした。次回も応募したい。
- ・最初は難しいと思ったけど簡単で面白かった。
- ・「1番になること」が印象に残った。
- ・バルーンロケットを飛ばすときにいろいろな段階があって楽しかった。
- ・1位になれなかったけど、改良して遠くまで飛べる方法を見つけます。
- ・みんなの驚きの表情がよかった。
- ・消極的な子ども積極的に楽しそうに実験していました。



- ・今まで寺子屋の活動を知りませんでしたでしたが、子供が楽しく話を聞いていたのでぜひこの企画を我校でも行ってほしい。
- ・最後の練習の後空気が抜けて、心にゆふにゆふになった。
- ・どのようにすればバルーンロケットがよく飛ばか、わかってよかった。
- ・低学年の子には、お話が長く集中力がとぎれてしまったが、大人は楽しかった。
- ・本校でもぜひまたいろいろなロケットを飛ばせてみたい。
- ・大便是、そのまま燃やすと聞いて驚いた。
- ・今度水ロケットで本校に来てほしい。
- ・2020年のニュースが楽しみ。
- ・「宇宙飛行士は、こんなにすごいんだ」ということが分かった。



【藍染体験】

- ・面白かった。楽しかった。貴重な体験だった。
- ・絵を描くのが楽しかった。
- ・修正液で描くのが難しかった。ドキドキした。
- ・きれいな染物ができてよかった。いい色になってよかった。
- ・意外と色がきれいでうまくできた。
- ・修正液で描いたところが白くなるということを見つけたのはすごい。
- ・学校ではなかなかできない体験ができてよかった。
- ・なかなか大変だったけど、またやりたい。
- ・自分が描いた絵がハンカチになるのがうれしかった。
- ・仕上がりがとてもきれい。機会があったらまたやってみたい。
- ・思ったよりも深い色だった。洗ったときにできた色むらもきれいだった。これからずっと使っていきたい。
- ・説明がわかりやすかった。
- ・なかなか下絵が思いつかず困った。下絵を考えてくるように、参加メールにアドバイスがあったらよかった。
- ・ガウを出すのがもっと難しいと思っていたけど、とても簡単でした。
- ・絵を描くのは難しかったけど水で洗ったり、何を書きたいかを考えたりするのは楽しかった。
- ・低学年には修正液がうまく使えず残念だった。
- ・簡単な工程で染めることができるので楽しめた。
- ・大人がやっても楽しそうと思った。
- ・親子で一緒につくることができ楽しかった。
- ・もっと大きなものにも挑戦したい。



【おもしろ立体づくり】

- ・楽しかった。
- ・少し難しかったが、面白かった
- ・同じ形のものを集めてこんな形のものができるとは初めて知った。
この形を作れてよかった。
- ・親子で楽しめた。この事業がとても良いので増えたらうれしい。
- ・もう一度次からもっと気を付けてやってみたい。



- ・同じ色が組み合わされないような十二面体を作るという課題で頭を使い、楽しかった。
- ・身近な不思議なものが作れることに驚いていた。
- ・面白かったけど子どもには難しいようでした。
- ・説明もとてもわかりやすく、子どもと楽しく作業することができた。
- ・作れてよかった。
- ・折り紙の大きさがおなじなのが不思議でした。
- ・立体を作るだけでなく、色がかさならないように組み立てるところが楽しかった。
- ・正十二面体の面を4色で塗り分けるところがとても面白かった。
- ・長方形を折るときと、差し込む時が難しかった。
- ・またいろいろと造りたい。
- ・身近な数学を学ぶ良い機会になった。
- ・知らないくす玉でくみてるのや、折るのが楽しかった。
- ・今回の体験学習でますます算数や立体について興味が強くなった。



【ドラムサークル】

- ・初めての太鼓、家では絶対出せない大きな音を大勢でたたけて楽しかった。
- ・楽しかった。
- ・いろいろな太鼓があって、音の高さが違うので面白かった。
- ・知らない方とのセッションができて、とても良い体験でした。
- ・身体でリズムをかんじられて1つのまとまりになった時、とても気持ちがよかったです。
- ・リーダーもとても上手でした。ストレス発散になった。
- ・ドラムをたたきたかった。
- ・手がそんなに痛くならなかったです。



【アニメ理科実験教室】

- ・実験で光らせるのが楽しかった。面白かった
- ・水ライトが簡単に作れてよかった。
- ・身近なもので水につけて光るなんてびっくりした。
- ・アニメを見ているところに魔女が出てきて、最後水ライトを当てて倒すのが面白かった。
- ・説明も非常にわかりやすく今後も参加したい。
- ・お話がすごく面白かった。いろいろな材料で光る色が好きな色で興味がわいた。また作りたい。
- ・水ライト作りは、簡単でしたがとても面白い仕組みで楽しかった。また参加したい。
- ・色が消えたら、家で作ろうと思った。
- ・子供も飽きずに楽しく参加できた。
- ・銅、炭、紙、マグネシウムだけで光が作れるなんて驚いた。
- ・中学生の方も協力してくれたので、失敗することなく楽しく参加できた。
- ・すごくきれいで、光も青と緑と赤でとても楽しくて、はるのも簡単でした。
- ・300円で作れるのがいい。
- ・不思議体験をした。
- ・七色に光るのは予想外で、虹が大好きなのでとても喜んだ。



- ・想像以上に明るくて驚いた。ぜんぜん消えないことも驚いた。
- ・ケースに入れるところが大変だった。
- ・お家でもいろいろな液体につけてみたい。
- ・理科に興味を持った。
- ・先生がやさしかった。ビデオがちょっぴり怖かった。
- ・親子で学べて楽しかった。
- ・やってよかった事は、ぬらせば、いつでもどこでも使えるし災害にも使えるからです。理科がとっても好きになりました。また作ってみたいです。



【ランタンづくり】

- ・細かい作業でむずかしかったけど、楽しかった。面白かった。うれしかった。
- ・親子で楽しめました。きれいなランタンが作れました。
- ・1時間では大変なので1時間半ぐらいあればいいと思う、ちょっと時間が短かった。
- ・教えてもらってきれいにできた。
- ・すごく素敵でうれしかった。満足している。
- ・綿を細くするのが難しかった。
- ・ライトをつけて完成品を見ることができ達成感があってよかった。
- ・紐だけでこんなにきれいにできることがわかりました。
- ・むずかしいバラの柄を選んだため親の協力が不可欠でした。
- ・バラのシルエットが細かく難しかったけど、いろいろな色を組み合わせるときれいにできてよかった。
- ・普段家でやらないことができよかった。抽選で外れた妹にも教えたい。
- ・糸がたまたまそろっていないものだったので少し困った。
- ・オリジナルな模様が作れてよかった。
- ・子どもたちが夢中で楽しんでいました。
- ・糸を絵に沿って貼っていくのが大変でした。
- ・親子で集中する1時間があったという間でした。
- ・貴重な時間でした。



第2部 意見交流会「寺子屋の学習支援が目指すもの」

参加者：約100名

コーディネーター 日本女子大学 教授 田中 雅文

教育委員会からの寺子屋事業の概要説明、下布田小、真福寺小の2つの寺子屋の実践報告に続き、市長や教育長を交えて意見交換を行いました。



【つながりと学力】

(田中先生) 教育社会学の志水宏吉さんの著書『「つながり格差」が学力格差を生む』によれば、「つながり」という要素が子どもたちの学力に響いてくる。実は学力の基本には人と人とのつながりがあるというユニークな分析だ。その本に興味をもったある秋田県出身の学生が「つながり」と学力の関係を調査した結果、大人と子ども、子ども同士のつながりなど、色々な形で人と人がつながる中で学習している東成瀬小学校は、全国学力・学習状況調査で県内でもトップクラスとなっている。このことから、「つながり」は学力向上の一つの要因といえる。人と人がつながることと、勉強を頑張ることは実は関連があり、大都市である川崎市では、意図的に人と人をつなげることが必要。



また、自分自身が成長していくための自己形成空間という言葉がある。今の子どもたちにとって、家庭や学校は自己形成空間として存在しているが、地域は自己形成空間になっているか。寺子屋事業の中で地域の方と出会い、地域社会の中で大事にされている、地域社会の中で生きているという感覚を子どもたちが味わうことが大事。地域の中に子どもたちの居場所があることは、学習だけでなく大人として成長していくうえでとても大事なことなので、これからの寺子屋事業に期待することは大きい。

(市長) 市内には、およそ 73 万世帯があるが、地域のつながりが希薄になっている。それに対する一つの「しかけ」として提案したのが「地域の寺子屋」である。それぞれの地域ごとにこれほどいい形で進んでいることは予想外に素晴らしい。市内 73 万世帯のうち、およそ 7 割が集合住宅で一戸建ては 3 割を切っている。昔は「隣の〇〇さんが…」 「あそこの□□さんは息子さんが 2 人いて…」 のように、近所のことを大体みんな知っていた。今は本当に知らない。ある意味では仕方がないことかもしれないが、地域のつながりを作り直すしかけとして、寺子屋がこのように広がって本当に嬉しい。田中先生の「つながり格差」が「学力格差」につながるというお話、感覚的には分かる。つながりの薄さが健康寿命に関わるというデータもある。地域の中でいろいろな人と交わること自体が、シニアの方が健康を維持することにもつながる。寺子屋に関わってくださるすべての人に感謝したいと思う。



(教育長) 市長の公約として始まった「地域の寺子屋」だが、教育委員会としては「やってよかったな」というのが実感としてある。これは学校教育の担当ではなくて生涯学習の担当しているところが始め、幅広い世代の方を巻き込んで展開してきた。学習支援は難しい勉強をするのではなく、子ども達に学習習慣を少しでもつけることや、勉強として「これをしなさい」ではなくて自発的に学習しようとする気持ちを大切にしてきた。体験活動は活動そのものだけでなく、親子一緒に作ったり考えたりする場を設けることで、世代間交流ができることが寺子屋のよさだと考える。寺子屋に来る子どもだけでなく、教えてくださる大人のみなさん、シニア世代のみなさんが笑顔で取り組んでいる。「自分の生きがいができた」「脳が活性化された」という声も聞く。子ども達と関わるのが大人の力になる。それも寺子屋のよさ。学校の先生方にも寺子屋のよさを共有してもらい、地域任せの寺子屋ではなく、学校も応援できるとよい。

(田中先生) 「寺子屋」とは、江戸時代に子ども達の学習・教育を行っていたしくみ。川崎市が「寺子屋事業」を始めると聞いた時には補習だと思った。東京 23 区で同じようなことをしている学生に聞いたところ、ここでは徹底的に成績を上げることが求められているらしい。川崎はつながりを復活させる一つの試みだと市長さんが言っていたのが新鮮だった。教育長さんからは生涯学習の部局・社会教育の領域がやっているところ

ろに特色があると聞いたが、それが大切。地域の教育力には「大人の子どもに対する教育力」ではなくて「子どもの大人に対する教育力」もある。それを世代間交流の中で川崎市はいい形でやっている。同時に「子どもの居場所」にもなって、子どもと大人が一緒になって地域を作っていくきっかけにもなる。「子どもの権利条例」を全国に先駆けて作った川崎市の伝統が脈々と受け継がれている。

【寺子屋の学習支援】

(田中先生) 学習支援について「こうなったらいいな」など、市長さんの考えは。

(市長) 他都市では学力向上を目指した寺子屋のような事業があるようだが、川崎市は絶対にそうではないという事は共通認識しておきたい。塾ではない。しっかりとした学習習慣を身につけることや、自己肯定感を高めるきっかけとなってくれれば嬉しい。保護者の立場から申し上げても、音読の宿題でも子どもときちんと向き合っただけ聞いてあげる余裕がないなあ、という反省がある。学校の先生はもっと忙しいので、一人ひとり聞いてあげるのは無理。しかし、ちゃんと向き合っただけ聞いてくれる、承認してくれることで、子どもは次にまた頑張ろうという気持ちになる。寺子屋で週に1回でも認めてもらう機会があれば、自己肯定感の向上につながり、次に挑戦するきっかけになる。学力自体を否定するわけではなく、学習習慣の定着や自己肯定感の高まりが、結果的に学力向上につながると考えている。

寺子屋に来る子には、その子なりの目的があると思う。多くの寺子屋先生がいれば、誰かが拾ってあげること、寄り添ってあげること、何かを発見してあげることができるかもしれない。そういうチャンスがあるのは素晴らしいこと。そのきっかけを寺子屋に期待したい。

(田中先生) 親子や、おじいちゃん・おばあちゃん、お兄ちゃん・お姉ちゃんをいった縦の関係、学校の友だちなどの横の関係はあるが、今の子ども達には「斜めの関係」が欠けている。地域のおじさん・おばさん、友だちのお父さん・お母さん、大人から見れば自分の子どもの友だちといった「斜めの関係」がとても大事だと言われている。親以外のたくさんの目が子ども達に向けられている寺子屋はとてもいい。

教育委員会として寺子屋事業に期待することは。

(教育長) 子ども達の主体性・自発性をいかにつけていくかということと、学習習慣・生活習慣をどう作っていくかということ。朝ごはんを食べていることと学力の相関関係が伝えられているが、朝ごはんを食べれば学力がつくわけではない。生活習慣が人間形成の基盤となっている。寺子屋でも約束を設けることが基本的な生活習慣やその場の規律を作っていくうえで大切。

(田中先生) 学習支援という言葉から始まったが、自己肯定感、自発性、生活習慣、つまり人として生きていくための基本的なものが大事だという認識があると感じられた。生活の上に学習がある。

寺子屋事業と学校との連携について教育委員会として大事だと思うことは。

(教育長) 学校の先生と寺子屋の先生がどのように子どもたちを育ていこうとするか、その思いを共有してもらいたい。新しい学習指導要領でのキーワード「社会に開かれた教育課程」とは、学校で目指している子ども達の姿を、学校だけでなく保護者のみなさんや地域の方々と共有していこうということ。同じように学校で目指していることと地域の寺子屋が目指していることを共有していくことが大事。

寺子屋先生が子どもを叱るのは難しいと思う。そのために約束を設けておくことが大事。その際に学校に相談することがあってもいいと思う。気になる子がいた時や気になる行動があった時には、学校に相談して情報を共有してもいいだろう。ただし、個人情報については守秘義務を考えてもらいたい。

【参加者からの質問事項】

(田中先生) 本日の参加者の方からの質問事項としてまず、次の4つが寄せられている。

①騒ぎ出したり歩き出したりしてしまう子への対応について

②寺子屋先生・コーディネーターの負担を大きくしないための工夫について

③寺子屋先生の質の維持・水準の確保への工夫について

④学校の教科書を活用した学習支援について

まずは一つ目の子どもへの対応について、寺子屋から、こんなふうにした、という事例があれば発言をお願いしたい。

(寺子屋関係者) うち登録児童数 132 名の大規模寺子屋。毎週、同じ寺子屋先生が同じ子ども達をみるように、席を固定している。歩き出す子がいたので担当者を女性から男性に変えたら、子どもがガラッと変わり、プリントにも取り組むようになった。他にも特徴のある子がいたので、学校の先生に相談し、アドバイスをいただいた。



(市長) 二つ目の負担軽減の話については、おそらく、どれだけ多くの寺子屋先生をリクルートできるかが、負担軽減に直結するのでは。リクルーティングの仕方について事例のご紹介を。



(寺子屋関係者) うちの寺子屋先生はおよそ 50 名。基本的には口コミで入ってもらった。教員経験がない人が多いが、学力を向上させるのではなく、ただ寄り添っていればよい、ということで安心して入ってもらっている。入ってもらったら子ども達よりも張り切って、喜んで活動している。「そんなに難しいことではない」ということで安心してもらっている。

(田中先生) 寺子屋先生が楽しく活動すれば、それがまたリクルーティングにつながる。

(教育委員会) 三つ目の寺子屋先生の質についてだが、学習内容について専門的な知識がないとできないということではない。寺子屋先生養成講座では、子どもへの接し方や落ち着かない子どもへ対応などについて、受講生のみなさんに話し合ってもらっている。また、養成講座だけでなく、コーディネーターや寺子屋先生の情報交換会なども開催し、具体的な悩みを持ち寄り、スキルアップに向けて話し合っている。

(田中先生) 最後に学校の教科書については。

(教育委員会) たぶん、教科書の入手方法に関するご質問だと思う。委託料で買っているところもあるが、保護者や子どもに不要になった教科書の寄付を募っている寺子屋もある。ただ、教科書で予習しなければ教えられないということはないし、子ども達のランドセルには教科書が入っているので、子どもと一緒に教科書を見ながらやればいい。

(寺子屋関係者) うち委託料で購入した。家に持って帰る先生もいるなど活用している。

(田中先生) 寺子屋事業の効果はどのように測定されているか、という質問も寄せられている。

(教育委員会) 年度末に各寺子屋でアンケート調査をしていただいているが、寺子屋に参加して楽しかったとか、勉強が分かったとか、地域の人とたくさん話せたとか、そういうものを効果として調査している。

(市長) 役所の仕事は、すべての事業に対して効果が求められるが、数値で測定することが当てはまらないものも結構ある。寺子屋では、子どもが「親以外の大人と話すことができた」ことに喜びを感じている。これ以上の効果がどこにあるか。こういう指標で十分。一方で、目標としては全校でやってもらいたい。そのために養成講座をやって寺子屋先生を増やすことが、行政としてしっかりやっていかなくてはいけないことだと考えている。

【協力者を増やすための工夫】

(保護者) シニアの寺子屋先生を増やすためには、シニア世代の方が「寺子屋先生をやってこうなった」などのデータも必要かと思う。シニア世代の協力者を増やすための施策は。

(市長) 区民車座集会での話だが、保育園の園長さんたちから、子どもとシニアの人たちを交わらせたいが、どうやって町会にアプローチをすればよいか分からない、という意見があった。自分の園がどこの町会に属しているのかを聞いている園長さんもいた。地域の中で子育てをしているはずだが、地域と関わっていない。話していくうちに、町会の方も同世代の中で「地域の、私たちの子ども達」という意識が芽生えた。お互いに、交わることでみんながハッピーになると気づいた。こういう意識が大事。町会の人たちも忙しい。むしろ町会活動に携わっていない人たちを引き込んで、町会活動にも参加してもらおうきっかけを作っていくか、ターゲットを絞って広報していく必要がある。

【寺子屋からの広がり】



(寺子屋関係者) 福祉の現場でエンターテインメントの活動をしている。寺子屋で年に1回フェスをやってみてはどうか。市民館のホールなどで発表会をするなど。そこに寺子屋先生や一般の方も呼んで、寺子屋事業を広める交流の場にしては。

(市長) 逆に、そういうのが求められているのかも。寺子屋からは「他の寺子屋はどんなふうに行っているのか」「こんな悩みがあるけれど、他に同じような悩みがあるところに答えを教えてください」といった意見をいただく。そこで、寺子屋同士の情報交換会をしている。寺子屋を行っている人たちが望んでいることを聞かせてもらいたい。みんなで「フェスをやろう」となればそういう形になっていくだろう。

(寺子屋関係者) 麻生区では地域教育会議が音頭をとって寺子屋のシンポジウムを開催した。寺子屋を開講している方や、これから寺子屋先生になりたいという人などが参加した。

(田中先生) 最後に市長さんと教育長さんから一言ずつ。

(教育長) 手探りの中で始めた寺子屋事業だが、みなさんのおかげでここまで来た。いろいろな方がいろいろな思いで作っていくのが大事。自分の強みを活かしていくことで寺子屋の特色が表れてくる。

寺子屋を運営しているみなさんが寺子屋のよさを発信すると新しく裾野が広がると思う。

(市長) 寺子屋は3つの目標を明確に掲げているが、細かいルールは明確になっていない。だが、ここが大事。もう少し決めてもらった方がやりやすいという声もあるが、それぞれの寺子屋で自分たちの寺子屋ルールを、みんなで悩みながら作り出していくことにこそ価値がある。一定の目的はあるが、それ以上は地域ごとに合わせてやってもらいたい。見方によっては無責任に聞こえるかもしれないが、このやり方こそ正しいと思っている。試行錯誤しながら、あるいは子ども達に教えてもらいながら、寺子屋事業をさらに進化させていきたい。まだ43校なので伸びしろがある。みなさんの意識が隣の学校、また隣の学校へと伝播していくような形を、ぜひみんなで一緒に作っていきたい。教育委員会、市長部局も一緒になって頑張っていきたい。これからもみなさんの力を貸していただきたい。

(田中先生) それぞれの地域特性に合わせて、それぞれの寺子屋が自主的にルールを作り出していくという、多様性と自主性が大事だと感じた。

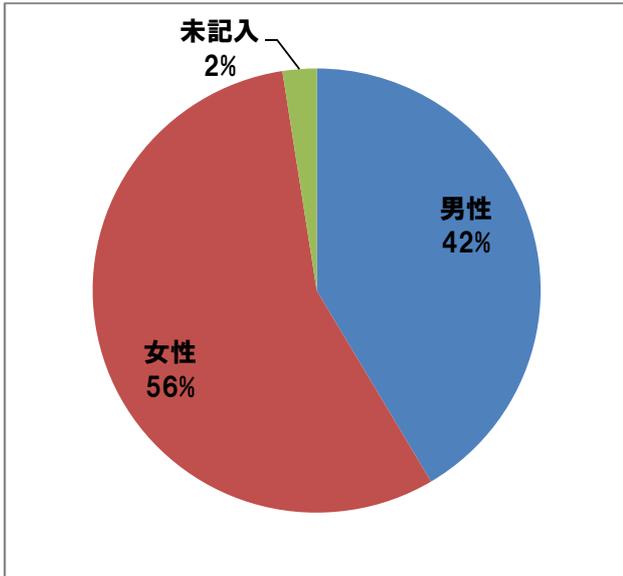
直線的に学力向上を目指すのではなく、そのベースとなっている学習習慣や意欲関心を大事にしたい。一方で子どもの居場所や自己肯定感など、子ども達の生活そのものを支えていく寺子屋でありたい、ということをおよび本日の共通認識としたい。



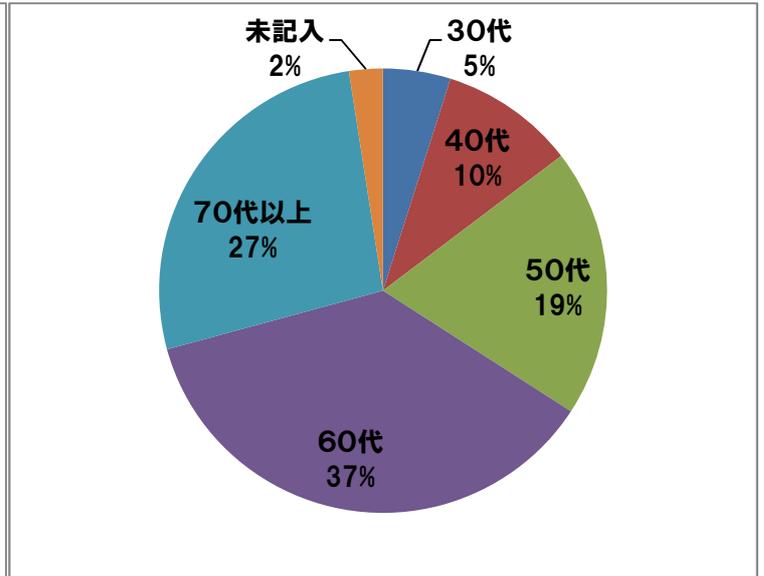
アンケート結果

回収枚数 41枚

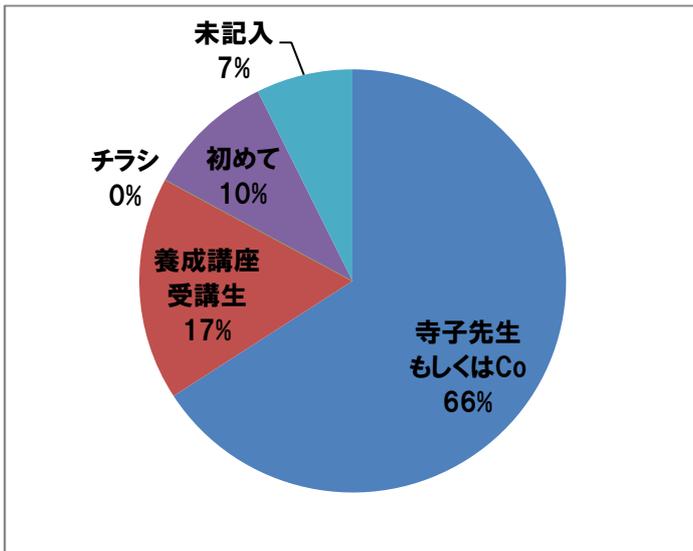
「男女」



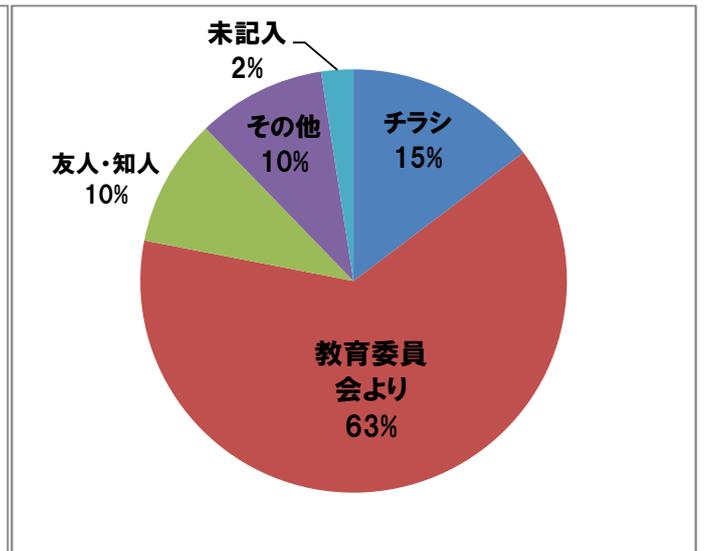
「年齢」



「寺子屋事業参加経験は？」

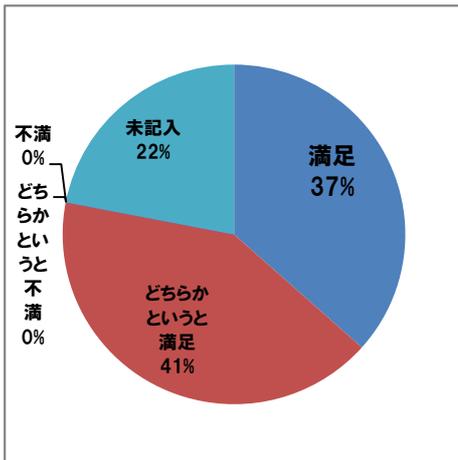


「本日のフォーラムをどこでお知りになりました？」

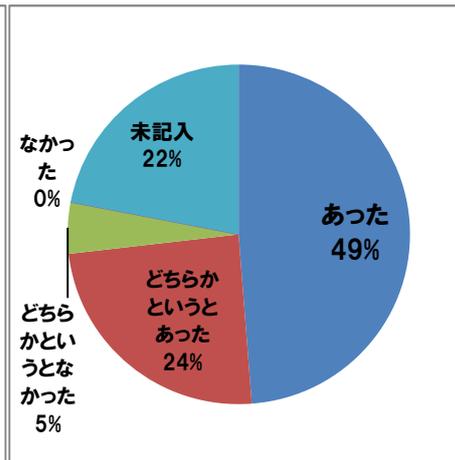


Co: コーディネーター

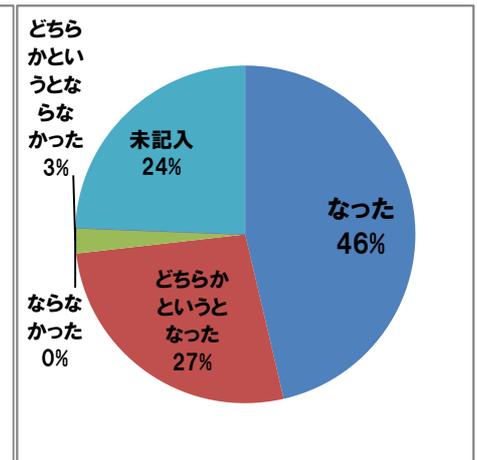
①参加した満足度



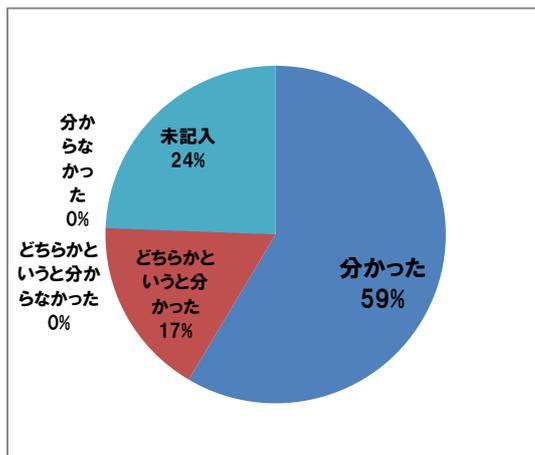
②新たな気づきはありましたか



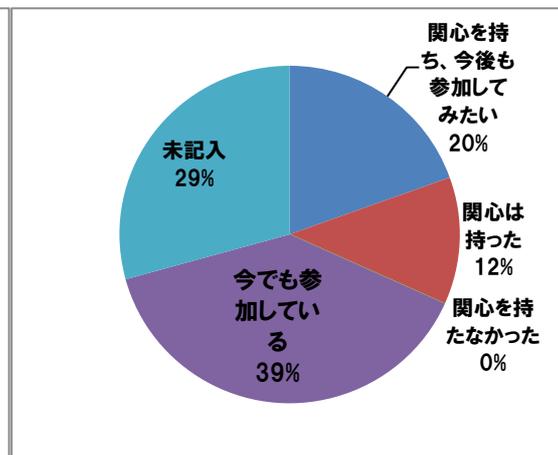
③子どもや地域を考えるきっかけになりましたか



④寺子屋事業のことが分かった



⑤活動に関心を持ちましたか



(参加者の感想)

- ・ 寺子屋の目的を再認識した。
- ・ 他の寺子屋から学んだことを今後の活動に生かしていきたい。
- ・ 寺子屋の児童の状況について、学校の先生に相談できることが分かった。これまでは、学校の先生に負担をかけないということで、学校との話し合いについては消極的に考えていました。
- ・ 3年前、寺子屋の立ち上げにかかわった。これほどまでに広がっているのは嬉しいが、組織として持続していくためには予算、学校との協力関係、わくわくプラザとの関係、学習環境の問題等、課題等も増えてきているように感じる。南中北ごとに寺子屋支援センターのような相談機関があるといいと思う。学校の協力連携が最も大事なことだと思う。わが寺子屋の場合、地元の帰宅ルートまで児童を送ってくれと学校から要請されたが、ボランティアにそこまで依頼されるのは荷が重い。
- ・ 本日の議事録の公開を期待する。1回聞いただけでは覚えきれないこと、忘れることも多く、振り返りに使いたい。
- ・ 第1部の体験教室の紹介・見学は参考になった。下布田の事例発表「課題と対策は、有益な情報」も印象に残った。
- ・ 寺子屋を増やしていくためには、学校にも地域の方にも寺子屋の良さをもっと知っていただくことが重要だと思います。広報に力を入れることが大事ですが、フェスのような大きなイベントをするのも一つの手立てだと感じた。各寺子屋の自由な取組を認めていただき感謝です。

- ・学校との連携というか共有は一つの課題として、本日の話は参考になった。
- ・寺子屋の学習支援は、学力向上ではないことがよく認識できました。ただし、ここはすごく難しい問題と思います。やりながら見つけていくことかもしれませんが、
- ・第1部の体験活動に参加した保護者は、内容に満足されていると思う（表情からもうかがわれる）。寺子屋の拡大につながる働きかけができるとよいと思う（アンケートに寺子屋拡大策を提案させるなど）。
- ・市長、教育長のお考えを確認でき良かった。事例発表も参考になった。
- ・市長・教育長の話聞き、寺子屋事業の施策について理解することができた。今後とも本事業の更なる発展をお祈りします。
- ・市長の思いが聞けてとてもやる気になった。寺子屋の拡大に向けて取り組む。
- ・誰と誰の意見の交流をするのか、最初に示していただき良かった。
- ・すぐに来年から共有してみたい、実践してみたい。
- ・勇気が出ました。
- ・子どもを主体に、周囲の関係樹立を如何にやっていくか。寺子屋と学校、コーディネーターと寺子屋先生、寺子屋先生と子ども、いずれもコミュニケーションなくしては始まらない。暗中模索の中を歩む中、教育委員会は、寺子屋の立ち上げに軸を置いているが、今後、今日のような情報をそれぞれの学校に流す役割も担ってほしい。それぞれの文化風土も生かしつつ地域の魅力を寺子屋からと願ってやまない
- ・事細かに決まっていなくて地域の特色を出せる、生かせるところがとても良いと思う。地域の教育力の向上にもつながると思う。私の地域では、寺子屋がまだない。ぜひかかわりたい。子どもの放課後にもいろいろ選択肢があると良いと思う。
- ・市長・教育長に対する質問があらかじめ寄せられていたが、その場でディスカッション形式にしたほうが活発な意見交換ができたようだ。質問で出された「寺子屋先生の質」という言葉が引っかかった。個性があり、分野があるので、子どもたちがそこから学べるのであれば、それが寺子屋先生の意味ではないか。
- ・全市実施までもう少しですね。みんなで頑張って進めていきたいですね。田中先生素晴らしかったです。
- ・川崎市教委の取組は素晴らしい（川崎市長の方針）。
- ・日頃の寺子屋事業が間違っていなかったことを再確認できた
- ・寺子屋先生として参加して、まだ日も浅いのですが、いろいろな話を聞かせていただき良かったです
- ・①子どもたちに県立ふれあいの村などの施設を利用し野外活動の体験をさせたい。班行動で高学年の児童をリーダーとし、大人は、それを見守り支援する。②日本の伝統を正しく伝承して楽しく覚えてもらい、古くから伝えられている日本の良いところ（礼儀作法）も少しずつ指導していきたい。
- ・各々の教室で大勢の方が参加されていて、ますますこの事業が活発に活動されることを希望します。寺子屋のことが少しずつ地域に知られてきていると思う。今後の取組が期待される。
- ・勉強になった。

フォーラム実施に向けて多くの方のご協力とご尽力をいただき、
また、たくさんの方にご参加いただきました。ありがとうございました。



図書館も応援しています！！親子の読書&地域の寺子屋！

～平成30年度 地域の寺子屋推進フォーラム 出展参加報告～

日時 平成30年12月23日（日・祝）

12:00～17:00

会場 中野島小学校

※特別活動棟の入口をお借りし、
ブースを設けました。

図書館ブースへの来場者

小学生と保護者、寺子屋関係者約250人



クリスマス仕様に飾りつけた図書館展示ブース。「華やか！」「きれいだね」とお声かけいただき、寺子屋運営団体のNPO法人かわさき創造プロジェクトの方がインスタにアップしてくださる一幕も。意見交換会のコーディネーター 日本女子大学 田中雅文先生のおすすめ本をはじめ、寺子屋の運営に役立つような資料を多数展示しました。



大型紙芝居、学校支援セット、団体貸出のコーナー。「学習支援で本をたくさん使いたいから詳しいことを聞かせて」と、寺子屋スタッフの方から質問をいただきました。

福田市長、
渡邊教育長の
おすすめ本も
この中に♪



多様性をテーマに、さまざまな図書を紹介。じっくり立ち読みする子や楽しそうに手に取るシニアの姿も。保護者の方から、「今度子どもと一緒に図書館に借りに行きますね！」とお声かけいただきました。



手づくりしおりコーナーでは、好きな台紙やシールを選んで、「マイしおり」を作りました。どのしおりもみんな素敵。「できたよ～」と見せてくれた子どもたち、どうもありがとう！また会おうね。多摩図書館で待ってるよ！

来場者のみなさんに、好きな本、おすすめ本を教えてくださいました。タイトルとおすすめのポイントをカードに書いて、クリスマスツリーに飾りつけます。

どんどん増えて、ツリーが見えなくなるほどいっぱい。小学生からシニア世代まで、さまざまな本が世代を超えて愛されていることを改めて実感できました。カードを書いた方に、レシートロールを再利用して作ったサンタ&トナカイをプレゼント。仲良くしてあげてくださいね！